

## 【概要】

# 2014 年度上半期 フラット35利用者調査

## I 調査の概要

フラット35を利用された方の社会的属性、住宅の概要等に関して、2014 年4月から9月までに買取りの承認を行った債権(借換えに係るものを除く。)のうち 23,783 件(2013 年度上半期:31,341 件)について集計。

本調査はフラット35の融資制度が創設された2003年10月の翌年度である2004年度から開始しています。

## II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

### 1 年齢40歳以上の構成比が上昇し、平均年齢も40歳を超え過去最高となった。

年齢40歳以上の構成比が43.1%と、2013年度上半期の38.0%を上回った。各融資区分別にみても、年齢40歳以上の構成比が上昇している。また、2011年度以降は、平均年齢も上昇傾向にあり、足下では40歳を超え、過去最高となっている。<p1、p3、p4>

### 2 世帯年収[注]の構成比に大きな変化はなかったが、平均世帯年収が初めて600万円を下回った。

世帯年収の構成比は大きな変化は見られなかった。世帯年収が399万円未満の構成比が25.0%(2013年度上半期:22.5%)と増加し、平均世帯年収は591万円となり、初めて600万円を下回った。<p2、p9、p10>

【注】世帯年収:申込ご本人の年収及び収入合算者の合算する年収の合計額

### 3 2010年度以降は、1人世帯の平均年齢は男女ともに上昇傾向にあり、足下で男性は下がっているものの、女性の平均年齢は45歳に上昇し過去最高となった。

1人世帯の平均年齢は男性が40.5歳であるのに対し、女性は45.2歳となり、女性の方が高い状況となっている。また、2010年度以降は男女ともに平均年齢が上昇傾向にあり、女性の平均年齢は過去最高となっている。<p11>

### 4 1㎡当たりの所要資金は、マンションで上昇傾向にある一方、建売住宅では横這い又は低下傾向となっている。

リーマンショック後の2009年度以降、1㎡当たりの所要資金は、マンションでは全国平均が上昇傾向(全国平均 2009 年度上半期:49.0 万円→2014 年度上半期:54.2 万円)にある一方、建売住宅では地域によって横ばい又は低下傾向(全国平均2009年度上半期:34.2万円→2014年度上半期:32.9万円)となっている。<p22>